

第30回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年5月13日（木）18：00～19：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授（WEB参加）

坂木 晴世 国際医療福祉大学大学院 准教授（WEB参加）

讃井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

安藤 宏 危機管理防災部長（WEB参加）

山崎 達也 福祉部長（WEB参加）

関本 建二 保健医療部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- 患者数は激増している地域と比較すると何とか踏ん張っている状況だと思ふ。（岡部委員、川名委員）
- 昼間の人流が減っていないことがアドバイザーリーポートでも指摘されていた。（川名委員）
- 入院患者は第三波と異なり、50代の患者が増えていて、若年化している。そういった情報を周知するべき。（光武委員）
- 現時点では直ちに緊急事態宣言を要請する状況にはないが、感染の急拡大の兆候を見逃さず対応すべき。（岡部委員、川名委員、竹田委員）
- 一般の人はこちらが思うほどメッセージをきちんと受け止めていない。本当に困るのは医療機関ではなく、病院にかかる患者であり、これから患者になる人だというメッセージを出す必要がある。（光武委員）

イ 新型コロナウイルス感染症対策の強化（案）について

- 宿泊療養施設では医師が常駐しているのに処方ができず、市販薬を買いに行かなければならないことが課題だと感じていた。療養者支援センター（仮）の開設で医療提供体制が充実されればと考える。（坂木委員）
- 自宅療養や宿泊療養への支援を強化し、療養者の急変を早期に探知して医療機関に送ることは賛成。ただ、療養者支援センター（仮）がうまくいったとしても、最終的に病院がパンクして重症患者対応ができなくならないよう、患者数を減らしていくことが重要。（川名委員）

ウ 入院調整用スコアについて

- 目安として活用し、絶対的な指標ではないということが重要である。（岡部委員、金井委員）
- スコア表は臨床的な現場の感覚に適合している。特に肥満の方が重要化しやすいのは現場の感覚でも明らかであり、肥満を2点に上げたのはよい。（川名委員、坂木委員、竹田委員）

エ 新型コロナウイルスワクチンについて

- 感染研で2000万本相当の検定に取り掛かっており、今後順当に入ってくることは間違いない。現時点で不足に見えても足りないとは大騒ぎすべきではない。（岡部委員）
- 現場で患者の診療に加えてワクチン接種の負担が増加しているとの声が多く出ている。（松田委員）
- ワクチン接種に潜在看護師を活用してほしい。看護協会では研修を重ねて300人近い潜在看護師を現場に出したいと考えている。（松田委員）